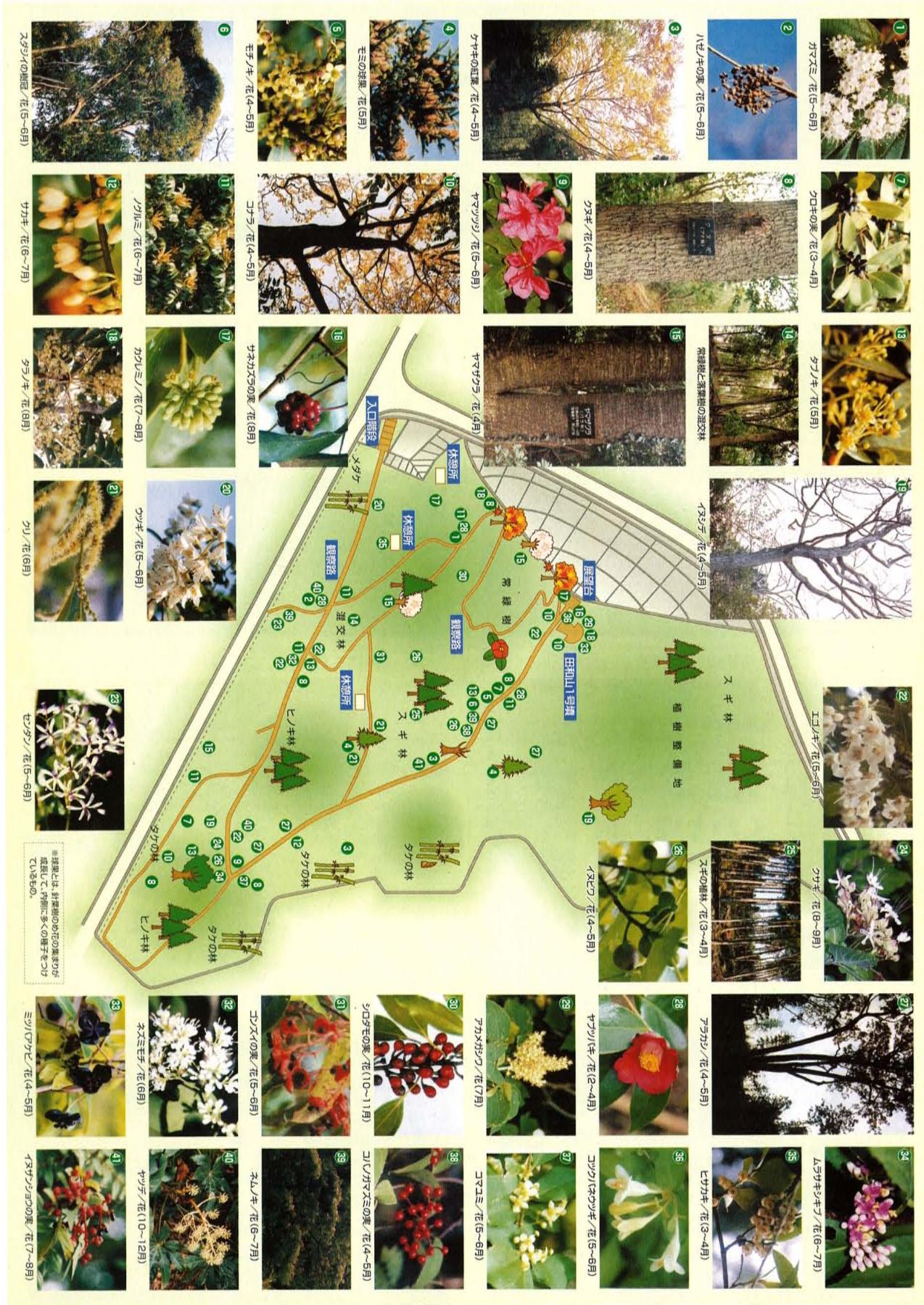


## 自然学者の森全体図 (ナチュラルガーデン)



## 第7章 ま と め

### (1) 史跡公園の活用と今後の展望

現在の田和山史跡公園の活用事業は、主に「田和山サポートクラブ」、「里山を育てる会」という市民団体によって実施されている。教育委員会の関与の仕方としては、これら団体が企画するイベントに対して補助金を交付する形をとっている。

教育委員会文化財課の職員は、日常的に開発協議や分布・試掘調査、整備事業の遂行に当たっており、各種活用イベントを企画・実施するために十分な陣容ではない。このためイベント等の実施を市民団体に担ってもらうメリットは大きい。また、事業内容についても、行政による企画ではなく、市民主体の企画であるため、自由度の高い事業の実施が可能になっている。

今後も行政と市民団体が協働して活用事業を末永く継続させ、拡大するためにはネットワークの構築が必要である。教育委員会と市民団体との間では、毎月一回の定例会を設けて対話をしている。また市民団体同士でも田和山サポートクラブは「山陰遺跡ネットワーク会議」に、また里山を育てる会も「森林を守ろう－山陰ネットワーク会議」という山陰の広域共同組織に加盟し、各地の交流を深め、活動の拡大を図っている。行政側でも、これら市民団体の広域ネットワークの状況を見習い、田和山と同じく弥生時代の遺跡である、荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡、西谷墳墓群、妻木晩田遺跡、青谷上寺地遺跡などとの連携を深め、共同企画の実施などを通じて、関西圏、関東圏の来客者数を増やす努力が必要であると思われる。

現在、史跡公園にはガイダンス施設が未整備である。出土遺物の展示や遺跡の詳しい説明、また史跡の活用や山頂まで登れない見学者のためにも映像やパネルを使ったガイダンスは必要不可欠である。このため早期のガイダンス施設整備が求められる。

### (2) 史跡公園の維持管理と今後の展望

現在、田和山史跡公園の管理のうち、復元建物管理（薰蒸作業）は田和山サポートクラブに委託し、芝や植栽の管理、急傾斜地の除草は専門業者に委託して実施しているが、その他の簡単な除草作業や里山の伐採などは市民団体のボランティアの力に負うところが大きい。今後は企業ボランティアを募るなど、地元の遺跡を地元で守っていくという機運を更に広い層で高めていくことが必要である。

開園時間は史跡公園の設置条例によって、開園時間は日の出から日没までと定められている。しかし現在は簡易なプレハブ管理棟があるだけで、職員スタッフの常駐体制はとりえていない。今のところ、維持管理上の大きな支障は生じていないが、今後想定される様々な問題に対処するためにも、現地でのスタッフ常駐体制は実現すべき課題である。

### (3) おわりに

田和山遺跡が「三重環壕」を持つ弥生時代の遺跡であることが判明して10年目を迎える。今の田和山があるのは市民の力に負うところが大きい。当初破壊される運命にあった遺跡の保存が決定されるまでには市民運動の大きな力があった。整備計画の策定時には市民ワークショップで様々な「田和山で○○がしたい」「田和山を○○にしたい」という意見が出された。田和山遺跡最大の特徴である三重環壕を、当初は埋め戻して平面表示する整備案として考えていたものを、発掘時の姿を再現する整備案になったのは市民ワークショップでの意見があったからこそである。復元住居が欲しいという意見も市民ワークショップでの意見である。遺跡の整備はいかにその遺跡の個性を引き出すかという点にかかっている。行政側の発想はつい安全策に振られがちであるが、市民の純粋な意見が思い切った整備へと後押ししてくれた。またその裏側では整備アドバイザー諸氏の貴重な助言と指導が整備を実現させた。整備事業を終えた遺跡に立つと三重の環壕は得も言われぬ迫力を醸し出している。復元された3棟の建物は田和山の景観を引き締め、見る者を一気に弥生時代にタイムスリップさせてしまう。2,000年前の田和山で一体何が起こっていたのか？そんな想像をかき立てる良い整備になったと思う。そして現在の活用事業の大きな原動力も市民の力である。正月の初日を拝む会から春の古代米田植え、夏のイベント、秋の稲刈り・・・田和山はこれからも市民の力によって様々な姿を見せるであろう。また田和山を舞台に様々な市民活動が展開されるであろう。その折々に行政は協働という形で参画して行くことになるであろう。これからも田和山史跡公園が市民に愛されることを願ってやまない。

## 報 告 書 抄 錄

フリガナ	シセキタワヤマイセキセイビジギョウホウコクショウ				
書名	史跡田和山遺跡整備事業報告書				
副書名					
卷次					
シリーズ名	松江市文化財調査報告書				
シリーズ番号	第113集				
編集者名	飯塚康行、佐々木紀明、藤井 一				
編集機関	松江市教育委員会				
所在地	〒690-8540 島根県松江市末次町86番地 TEL (0852) 55-5284				
発行年月日	西暦2008年3月28日				
所収遺跡	史跡田和山遺跡			コード 市町村	遺跡番号
所在地	島根県松江市乃白町				
北緯	35° 26' 06"	東経	133° 03' 24"	32201	D865 (島根県遺跡番号)
事業期間					
2001年4月～2008年3月					
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田和山遺跡	環壕遺跡	弥生時代	環壕、柵、柱穴 竪穴住居跡 掘立柱建物跡 加工段	弥生土器 石器 石製品 土製品	
		古墳時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土壙墓	須恵器 土師器	

松江市文化財調査報告書第113集

史跡田和山遺跡整備事業報告書

2008年3月

発行 松江市教育委員会

島根県松江市末次町86

印刷 太陽平版

島根県松江市馬潟町356-6